

東京地方検察庁との連携による「通訳人を介した模擬裁判」を開催しました

通訳の仕事は、会議通訳や観光客への対応など様々ですが、日本に滞在する外国人が増加するにつれ、取り調べや裁判などの法的な場面で通訳を行う司法通訳のニーズも増加しています。そこで、司法通訳の重要性についてたくさんの方に知っていただくために、東京外国語大学と東京地方検察庁との連携で「通訳人を介した模擬裁判」を実施しました。

模擬裁判では、外語大の留学生や卒業生などが通訳人役として出演し、検察官による解説を交えながら、外国人が裁判に関わる際の進行の概要を理解していただきました。アンケートでは、参加者のほとんどが「参考になった」「司法通訳に興味を持った」と回答し、「司法通訳を身近に感じることができた」「裁判における通訳人の役割がよく分かった」という感想もいただきました。

なお、東京地方検察庁とセンターとは平成29年4月24日付で連携・協力をする旨の覚書を締結しており、この事業も覚書の一環として実施しています。

講評：内藤稔講師（東京外国語大学大学院総合国際学研究院）

○日時：平成29年11月23日（木・祝） 14:00－15:30

○会場：東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟227教室

○進行：

- 14:00 ～ 14:05 挨拶・注意事項
- 14:05 ～ 14:10 概要の説明
- 14:10 ～ 14:15 冒頭手続（起訴状の朗読など）（日⇄英 逐次通訳）
- 14:15 ～ 14:25 警察官（日本語）の証人尋問（日→英 逐次通訳）
- 14:25 ～ 14:40 被害者（中国語）の証人尋問
（質問：日本語→英語、日本語→中国語、証人の答え：中国語→日本語→英語）
（逐次通訳と同時通訳の双方で実施）
- 14:40 ～ 14:50 被告人（英語）に対する質問（日⇄英 逐次通訳と同時通訳の双方で実施）
- 14:50 ～ 15:10 総括
- 15:10 ～ 15:30 講評、質疑応答



来場者が入りきらず、立ち見の方もいました

○事件の内容：

電車内でのスリ未遂（窃盗未遂）の事案。

英語を母語とする被告人が、電車内で、中国語を母語とする被害者の手提げバッグ内に手を差し入れて、バッグ内の金品を盗もうとしたものの、これを目撃していた警察官に発見されて逮捕されたというもの。

警察官と被害者は、被告人がバッグ内に手を差し入れた様子を目撃しているが、被告人は「バッグ内に手を差し入れていない。盗もうとしていない。」と供述して、起訴事実を否認している。



検察官が被害にあったバッグを示しているところ

○配役：

- 被告人役（設定：英語母語話者）：本学卒業生
- 被害者役（設定：中国語母語話者）：本学留学生
- 通訳人役（英語・中国語各2名）：東京外国語大学言語文化サポーター
（本学卒業生及びオープンアカデミー修了者）
- 警察官役、検察官役、弁護士役、裁判長役：東京地方検察庁検察官

○新聞等への掲載：6社の取材を受け、以下の通り掲載されました。

- ・2017年11月20日（月） 毎日新聞
（毎日新聞ニュースサイト、YAHOO! ニュースにも掲載）
- ・2017年11月22日（水） 読売新聞
- ・2017年11月23日（木） NHKニュース7（NHK NEWSWEBにも掲載）
- ・2017年11月24日（金） 東京新聞
- ・2017年11月24日（金） 日経新聞
- ・2017年11月24日（金） 産経新聞
- ・2017年11月24日（金） 毎日新聞ニュースサイト
- ・2017年11月25日（土） 毎日新聞



本学の内藤先生による講評